

兵庫県佐用町 校務 DX 計画

校務 DX の本旨

佐用町における校務 DX の推進は、「教育の質の向上」と「持続可能な校務運営」の実現を根幹としています。DX（デジタルトランスフォーメーション）は単なるツールの導入ではなく、業務の本質を見直し、教育現場における新たな価値を創造するプロセスです。本計画では、児童生徒に公平で質の高い教育を提供するため、教職員の負担軽減を図りつつ、教育活動そのものの充実を目指します。

現状と課題

これまで佐用町では、校務支援システムのクラウド化やネットワークの統合を通じて、校務デジタル化の基盤を構築してきました。この取り組みにより、校務と学習の環境が融合し、教職員が業務と授業を効率的に進められる環境が整備されています。また、「まなびポケット」を基盤とした学習 e ポータルにより、シングルサインオン機能を実現。データの一元管理とセキュリティ対策の両立を図ることで、操作性と安全性を高めました。しかし、以下の課題が依然として存在します。

1. **目的と手段の混同**：ツールの導入自体が目的化するリスクがあり、本来の教育の質向上や業務効率化が後回しになる懸念。
2. **業務プロセスの未整理**：紙ベースの業務や従来型のフローが残存しており、DX の本質的な効果が発揮されにくい状況。
3. **ICT スキルのばらつき**：教職員のスキル差が、システムの活用度合いや業務効率に影響を及ぼしている。

計画の柱

本計画では、DX の本旨を踏まえた以下の重点施策を進めます。

1. **教育の質を高める業務環境の構築**：校務と学習の完全な統合を目指し、教職員がより教育活動に集中できる環境を整備します。ICT を活用することで業務負担を軽減し、教育活動の価値を高めるプロセスを構築します。
2. **現場の課題に即した業務フローの再設計**：DX の成功には現状業務の課題を深く理解し、無駄を排除したプロセスの再設計が不可欠です。紙ベース業務を徹底的に見直し、ツール導入による効果が最大化されるフローを構築します。
3. **持続可能なセキュリティ対策**：校務系情報と学習系情報の重要度分類に基づき、多要素認証やデータ暗号化を適用し、情報の安全性を確保します。特にクラウド化を進めることで、大規模災害時でも運用を継続できる仕組みを強化します。
4. **ICT スキル向上による活用の平準化**：教職員を対象とした段階的な ICT 研修を実施します。成功事例の共有や実践的なスキル向上を通じて、全教職員がツールを効果的に利用できる環境を整えます。
5. **データ駆動型教育の推進**：校務支援システムと学習データを統合し、教育活動の効果をデータで測定・分析します。これにより、根拠に基づく意思決定を可能にし、教育活動の質をさらに高めます。

結論

佐用町における校務 DX 計画は、児童生徒の学びを最大化し、教職員が教育活動に専念できる環境を実現するための包括的な取り組みです。DX の本旨を忘れず、システムやツールの導入が手段であることを強く意識し、教育の本質に立ち返ることで持続可能な未来を築いていきます。教育委員会と学校が一体となり、佐用町ならではの新しい教育モデルを共に創り上げます。